

2 0 1 7 年 2 月 2 3 日

株式会社 富士経済  
 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町  
 1 番 5 号 PM0 日本橋江戸通  
 TEL.03-3664-5811 FAX.03-3661-0165  
<https://www.fuji-keizai.co.jp/>

広報部 TEL.03-3664-5697  
<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

味噌、しょうゆなどの調味料、インスタントカレーやふりかけなどの調味食品の最新動向

## 調味料・調味食品 7 8 品目の加工食品国内市場を調査

2 0 1 6 年市場見込 ( 2 0 1 5 年比 )

ドレッシング：9 6 8 億円 ( 1 . 6 % 増 ) カロリーを気にせず使  
 用できるノンオイルタイプが市場をけん引

グラタン関連セット食品：4 2 億円 ( 1 0 . 5 % 増 ) 簡便調理が支持され市場が大幅に拡大

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済 ( 東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 清口 正夫 03-3664-5811 ) は、2 0 1 6 年 8 月より 6 回に分けて 2 7 カテゴリー 4 1 2 品目の加工食品国内市場について調査を行っている。その第 4 回目の結果を報告書「**2 0 1 7 年 食品マーケティング便覧 No. 4**」にまとめた。

この報告書では、調味料 5 4 品目、調味食品 2 4 品目、計 7 8 品目の市場を調査・分析した。なお第 5 回目は農産加工品、畜産加工品、水産加工品、乳油製品、第 6 回目は果実飲料、炭酸飲料、乳性飲料、嗜好飲料、健康飲料、その他飲料、嗜好品の市場を調査・分析する。そして第 7 回目にこれまで調査・分析した各市場を総括分析する。これらの結果は順次発表していく。

### < 注目市場 >

#### ドレッシング ( 調味料 )

2 0 1 5 年	2 0 1 6 年見込	2 0 1 7 年予測
9 5 3 億円	9 6 8 億円	9 7 4 億円

市場は近年健康志向を背景に順調に拡大していたが、2 0 1 4 年は野菜の高騰の影響を受け多くの市販用ブランドが苦戦を強いられ市場は微増にとどまった。

2 0 1 5 年は、依然として野菜の高騰が市場全体に影響を及ぼしたが、キューピーが新たに投入したノンオイルタイプの商品が好調であったため市場は拡大した。2 0 1 6 年は、引き続きキューピーのノンオイルタイプの商品がけん引し市場拡大が見込まれる。また、家庭や外食業態で野菜以外の素材を積極的に取り込んだサラダメニューが増加しており、サラダの喫食頻度の増加が市場の拡大を後押ししている。

#### 食用油 ( 調味料 )

2 0 1 5 年	2 0 1 6 年見込	2 0 1 7 年予測
2 , 9 1 0 億円	2 , 9 8 0 億円	3 , 0 0 5 億円

2 0 1 1 年の原料価格の高騰や、2 0 1 4 年の増税後の買い控えの影響を受け、販売量は減少しているものの特売頻度の減少や値上げなどにより市場は堅調に拡大している。

原料事情の悪化を受けて各メーカーが値上げを行ったことにより 2 0 1 5 年も販売量は減少した。しかし、オリーブ油やごま油、健康油が好調だったことに加え、アマニ油、えごま油、ココナッツオイルがブームとなり、市場は続伸した。2 0 1 6 年は、サラダ油やキャノーラ油の需要の減少が続いているが、上位企業による積極的なレシピ提案や、需要の増加が続くオリーブ油、ごま油がけん引し市場は拡大が見込まれる。

#### その他調味酢 ( 調味料 )

2 0 1 5 年	2 0 1 6 年見込	2 0 1 7 年予測
8 2 億円	8 7 億円	9 0 億円

土佐酢、甘酢、らっきょう酢などしょうゆや砂糖などの調味料で味付けされた合せ酢 ( 調味酢 ) を対象とする。上位企業のみならず地方の企業でも様々な商品が展開されており、震災の影響を受けた 2 0 1 1 年を除いて市場は拡大を続けている。

2 0 1 5 年は、Mizkan の「カンタン酢」が大幅な成長を維持したことに加え、その他メーカーでもメニュー

ー提案や調理の簡便化の訴求が奏功し市場は拡大した。2016年は、Mizkanが好調な「カンタン酢」のラインアップを強化していることに加え、その他メーカーが調理の簡便性を高めた商品の販売に注力していることから市場の拡大が見込まれる。

#### グルタン関連セット食品（調味食品）

2015年	2016年見込	2017年予測
38億円	42億円	46億円

調理が難しいメニューを簡単に作ることができる点が支持され需要は増加している。子供のいる家族向けのほか、ワインやパンとの組み合わせによる大人向けの食シーンを狙った展開で、幅広い世代へと広がっている。

2015年は、上位企業による積極的な新商品の投入や販促展開によって市場は大幅に拡大した。2016年は、主力のグルタンだけでなく、ラザニアでも新商品の投入やリニューアルが行われ、家族向けや大人向けの需要を獲得し、市場は二桁増の見込である。

#### <調査結果の概要>

	2015年	2016年見込	2017年予測
調味料（54品目）	1兆5,674億円	1兆5,850億円	1兆5,892億円
調味食品（24品目）	4,762億円	4,844億円	4,881億円

#### 調味料

調味料は、各メーカーによる積極的なレシピ提案が行われている一方で、高齢化や少人数世帯の増加に伴って商品の小容量化が進んでいる。

食用油は、販売量の減少が続いているが、積極的なレシピ提案やオリーブ油、ごま油の伸長が市場の拡大をけん引していくとみられる。

白だしは、積極的なプロモーションが奏功し東日本でも認知度が高まり、好調である。

食酢は、黒酢がTV番組で取り上げられたことにより2016年の市場は久しぶりに拡大する。

簡易型粉末調味料（市販用）は、2015年に大幅に伸長した反動がみられるが、新規参入が寄与して2016年も市場は拡大する。

焼肉のたれは、バーベキューの人気上昇を追い風に市場は拡大する。

スパイス類は、パクチー使用メニューやわさびの肉料理向けなど、用途の広がりが市場の拡大に寄与するとみられる。

鍋つゆは、伸長率は鈍化してきたものの、小分けタイプ商品で大幅な伸長が続いており市場は拡大する。

半練中華だし（市販用）は、本格的な中華の味付けが簡単にできる点が支持されており、引き続き市場は拡大する。

#### 調味食品

インスタントカレー、レトルトカレーは、2015年に実施された値上げが定着したことや、プレミアム商品によるユーザーの獲得が進んでいることにより、2016年の市場はプラスに転じる。

メニュー専用合せ調味食品は、野菜高騰を背景に麻婆豆腐などの豆腐料理用商品が好調となり中華メニューやエスニックなどのバラエティーメニューが伸長している。

ふりかけは、一部上位企業の商品がTV番組で取り上げられたことで好調となり市場の拡大に寄与している。

<調査対象>

調味料	食用油 アマニ油（市販用） つゆの素 液体風味調味料 その他調味酢 マヨネーズ類 ノンオイルドレッシング ステーキソース トマトピューレ・ペースト ペッパーソース 豆板醤 ラーメンスープ（業務用） キムチ鍋の素 半練中華だし（市販用）	オリーブ油 味噌 白だし 食酢 本みりん マヨネーズタイプ調味料（市販用） 簡易型粉末調味料（市販用） ソース スパイス類 機能性甘味料 具入りラー油（市販用） しゃぶしゃぶのたれ おでんの素 塩麴	ごま油 しょうゆ うどんスープ（市販用） すし酢 みりん風調味料 タルタルソース コンソメ・ブイヨン お好み・焼そばソース わさび・からし 浅漬けの素 キムチのたれ すき焼きのたれ うまみ調味料	健康油 塩（特殊製法塩） 風味調味料 ぼん酢 発酵調味料 ドレッシング 焼肉のたれ トマトケチャップ 純カレー オイスターソース ガラスープ 鍋つゆ レモン果汁（市販用）
調味食品	インスタントカレー レトルトシチュー パスタソース メニュー専用合せ調味食品 チルドメニュー専用調理済食品 すしの素	レトルトカレー インスタントハヤシ ブラウン・ホワイトソース 中華メニュー専用合せ調味食品 炒飯の素 釜飯の素・炊き込みご飯の素	缶詰カレー レトルトハヤシ トマトソース 和風・洋風メニュー専用合せ調味食品 お茶漬け どんぶりの素	インスタントシチュー ピザソース グルタン関連セット食品 韓国メニュー専用合せ調味食品 ふりかけ ぞうすいの素

<調査方法>

富士経済専門調査員による参入企業および関連企業・団体などへのヒアリングおよび関連文献調査、社内データベースを併用

<調査期間>

2016年10月～2017年1月

以上

資料タイトル：「2017年 食品マーケティング便覧 No.4」

体 裁：A4判 352頁

価 格：書籍版 100,000円+税

PDF / データ版 110,000円+税

書籍版・PDF / データ版セット 130,000円+税

書籍版・ネットワークパッケージ版セット 200,000円+税

発 行 所：株式会社 富士経済

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町1番5号 PMO日本橋江戸通

TEL：03-3664-5811（代） FAX：03-3661-0165

URL：<https://www.fuji-keizai.co.jp/> e-mail：[info@fuji-keizai.co.jp](mailto:info@fuji-keizai.co.jp)

調 査・編 集：東京マーケティング本部 第一部

TEL：03-3664-5821 FAX：03-3661-9514

この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL：<http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>